

## 第五次計画のスローガンの（事務局案）について

### ■これまでの県のスローガン

- 第一次 「働き盛りのがん死亡率半減」
- 第二次 「がんにならない がんに負けない」
- 第三次 「がんを知り がんと向き合う」
- 第四次 「がんを知り がんと向き合う  
～県民の参療を目指して～」

### ■これまでの国の全体目標

- 第1期 「がんによる死亡者の減少」  
「すべてのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上」
- 第2期 「がんによる死亡者の減少」  
「全てのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上」  
「がんになっても安心して暮らせる社会の構築」
- 第3期 「がん患者を含めた国民が、がんを知り、がんの克服を目指す。」
- 第4期 「誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての国民とがんの克服を目指す。」

### ■事務局

(案1) **スローガン変更** 「がんを知り がんと共に生きる～全ての県民の参療を目指して～」

(理由) 国民の2人に1人が一生に一度はがんになる現在、全ての県民ががんを知り、  
がん（予防・検診・療養生活・患者への理解etc.）を意識して生きることを目指す意味を込めて。

(案2) **スローガン継続** 「がんを知り がんと向き合う～県民の参療を目指して～」

(理由) がん計画のコンセプトが綺麗にまとまっている。

スローガンを変えないことで、県民への定着を図ることができる。

## ■第五次計画のスローガンに関し、委員からいただいた御意見 (五十音順)

委員名	御意見
荒井委員	あえて、変える必要も無いようにも思います。 端的に示した、良い内容だと思っています。
北見委員	私も、「参療」については、茨城県独自のものなので、入れていただきたい。 例：「がんを知り 共に生きる」 ～さらなる県民の参療を目指して～ 「誰もががんを知り 共に生きる」 ～さらなる県民の参療を目指して～
志賀委員	「参療」というキーワードは茨城県独自のものなので、入れてもらいたい。 自分自身学校現場でがん教育講演会を行うときにも「参療」については必ず説明している。
志真委員	参療をわかりやすく言い換えたスローガンにしてはどうか 提案：主テーマ「がんを知り、共に生きる」 副テーマ「県民のがん医療への参画をめざして」
白川委員	「がん」に対してまだまだ恐怖観を抱いている県民が多いのではないかと。 「がんを知り、がんに向き合う」ことは必要ではあるが、向き合うことの恐怖が先行し、避けたくなる気持ちもあるのではないのでしょうか。 「大事な人のために、がんを知り、がんに向き合う」等少し、柔らかな表現では如何か
沼田委員	「がんに向き合い 豊かに生きる ～県民の参療を目指して」 がんに向き合い … 正しい知識を得、予防に取り組み、検診を受け、見つければ治療を受ける 豊かに生きる … それにより健康を維持し、がんの診断後も安心して治療と仕事などを両立して、がんを治し、末期には緩和ケアや在宅医療により尊厳をもって生きる 県民の参療を目指して … 誰一人取り残さない といった意味を込めています。